

生化学的検査の項目

ALT (GPT)

標準値 5~45 IU/L*

肝臓に最も多く含まれる酵素。肝炎などで肝細胞が障害を受けたときに数値が上昇します。

AST (GOT)

標準値 11~37 IU/L

心筋や肝臓に多く含まれる酵素。心筋梗塞や急性肝炎、アルコール性肝障害などで数値が上昇します。

γ-GTP

標準値 10~65 IU/L

肝、胆道、膵、腎などに多く含まれる酵素。閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などで数値が上昇します。

総たんぱく

標準値 6.5~8.2 g/dL

病気で栄養が悪くなったり、肝臓や腎臓が悪くなると数値に異常が出ます。

アルブミン

標準値 3.9~5.0 g/dL

血清たんぱくの大半はアルブミンです。総たんぱくとほとんど同じ意味があります。

A/G比

標準値 1.2~2.0

アルブミンとグロブリンの割合が適正であるかどうかの指標です。

総たんぱく、アルブミン、A/G比は一連のものとして判断されます。

コレステロール

標準値 110~250mg/dL

中高年者には最も気になる数値ですが、これが高いと動脈硬化や高血圧が促進されるといわれています。脂肪の多い食事をとり過ぎていたり、肥満、腎臓、膵臓、胆管、胆道などが悪いときにも数値が高くなります。

*IU:国際単位

献血にご協力いただいた方全員を対象に、血液型のほかに、7項目の生化学検査を行い、結果をお知らせしています。検査結果はいずれも通知を希望された方を対象とし、献血後約2週間程度で親展(書簡の郵便)にてお知らせ

いたします。これらの献血時の検査によって、病気の早期発見ができることもあります。検査の結果が異常な場合には、早めに医師の診察を受けましょう。また、エイズ検査の結果についてはお知らせしていません。いくま

れに現在の検査でも分からないくらい微量のウイルスが血液に混入している場合、輸血を受ける患者さんがエイズに感染することがあります。したがって、エイズに感染している可能性のある人は決して献血しないでください。



輸血は、だれの血液でもよいというわけではありません。輸血を受ける人と同じ血液型の血液を輸血します。A B OとRh血液型(赤血球の型)の2つを合わせる(こ

とが基本となります。たとえば、患者さんがA B型でRhマイナスだとすると、A B OもRhも同じ型の血液を輸血します。この場合、A B型の日本人は10人に1人で、Rhマイナスは200人に1人ですから、同じ血液型の人

は2000人に1人という割合になり、すぐに見つかるとは限りません。以前はこうした時に、輸血用の血液がないという状況が報道され、これに促されて血液の提供を申し出る方のおかげで、無事手術が行われるということがありました。現在は、献血に協力していただ

血液型は大事だっち。



A B O血液型はメンデルの遺伝の法則に従って遺伝します。A、B、O、A B型の四つの血液型を遺伝子型からみると、A型にはA AとA Oがあり、B型にはB BとB Oがありますが、O型はO O、A B型はA Bです。A型同士の両親からでも、遺伝子がA AとA Aなら、子どもはA型しか生まれませんが、遺伝子型がA OとA Oなら、子どもはA型かO型の子どもが生まれます。A AとA Oの両親からは、遺伝子型A AかA OのA型の子どもが生まれることとなります。これはB型の場合もまったく同じことがいえます。そのほかの組み合わせに関しては、表を参考にしてください。

両親の子と血液型

父 \ 母	A 型	B 型	AB型	O 型
A 型	AまたはO型	すべて	O型以外	AまたはO型
B 型	すべて	BまたはO型	O型以外	BまたはO型
AB型	O型以外	O型以外	O型以外	AまたはB型
O 型	AまたはO型	BまたはO型	AまたはB型	O型のみ